



森のなかま

2009年11月号

NO. 19 (継続164)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp>

発行人 島岡 功

10月10日 全国植樹祭2010へ向かって カウントダウン スタート

カウントダウンセレモニーに於いて柏倉植樹祭担当理事、力強くアピールをする！！



森林づくり報告をする柏倉理事

『神奈川の森林を豊かな森林に育てたい！』と私達の会は誕生しました。平成4年4月のことです。32名の志を同じにする者の集まりでした。その日から18年、「神奈川の緑を守り、育てる」という思いを持つ仲間は現在、240名を超えるまでになりました。昨年、組織を改編してNPO法人となり思いも新たに再出発をしました。

会の活動目的は、

『多くの人達に神奈川の今の森を知っていただく』ための<森林及び林業に関する普及啓発活動>

『皆さんに神奈川の森づくりに手を貸していただく』という<県民参加による森林づくり活動の推進>の2つです。

この目標の下、会員の研修や調査研究・情報発信を怠ることなく続けながら、取り組んでいる対外的な活動は2つあります。県民参加の森づくり活動 県や企業などからの要請を受けた活動

1つ目の活動「県民参加の森づくり」は財団法人かながわトラストみどり財団が主催する事業の（森林づくり活動）や（森林づくり体験講座）の支援です。年間19回実施される活動で、出来るだけ多くの人々が森づくりに関わって貰う事を願って企画されています。

2つ目の「県や企業などからの要請を受けた活動」は「ネットワーク活動」と呼んでます。これは県や実行委員会からの依頼 市町村・企業・学校からの派遣依頼・・・と2つあります。の場合2つの支援があります。イ、1日完結型（とりくみ）・水源林のつどい・全国植樹祭関連イベント・街頭キャンペーンなど・

ロ、1年継続型 松田町やどりき水源林内

やどりき森の案内人活動を毎週、土曜、日曜（平成20年実績、78回）・赤ちゃん誕生を記念し植樹した、成長の森巡視活動を毎週水曜日（46回）

は「ネットワーク活動の中核」として力を入れています。昨年度は107件の依頼がありました。ところで、企業や学校はどのような思いで活動要請されているとお思いでしょうか？2つご紹介します。

企業「県営水道利用者に、水道林保全のための取り組みを通して、水源林の大切さや水道事業への理解と関心を深めていただくために下草刈りを実施します。」

学校「川崎にない自然の中で、体験学習や自然学習を通じて、生徒同士及び生徒と先生のより良い人間関係を築き上げ、連帯感を深める場としたい。」

これらの「ネットワーク活動」の中味は（植樹・下草刈り・枝打ち・間伐等の森林づくり）（自然観察）（竹工作や木工クラフト）（森林探訪）（森林講話）（広報活動）等、様々です。

このように、私達は『神奈川の緑を守り、育てる』という活動に多くの県民の皆さんとともに、共に汗を流し、地道ですが着実に確かな歩みを刻んでいます。

森の中に入れば「スギやヒノキの人工林からの叫び」が聞こえてきます。

どうぞ、時間をつくり山に足を運び、森を見つめ、森の声を聞いてみませんか？

そして「何ができるだろうか？」と考えていただければ嬉しく思います。

<カウントダウンセレモニー・森林づくり活動等活動発表会においての、柏倉植樹祭担当理事のスピーチを掲載しました。>



***** やどりき水源林のつどい *** 開催！**

森本 正信<5期>

平成21年10月17日(土) 恒例の「やどりき水源林のつどい」が開催されましたので、概要をお知らせします。当日は何とか曇天で、水源林・森林再生パートナーや定着型ボランティアのメンバーなど、総勢368名の参加があり、全体としてゆったりとした交流時間を共有することが出来ました。

- 主催： 県民との協働による森林づくり実行委員会
- 共催： 松田町
- 協賛： 神奈川県内広域水道企業団

午前中は水源林トレッキング。森づくり木こりコース、自然観察と成長の森植樹の3コースが用意され、先ずは秋の深まるやどりき水源林を満喫。

午後は、セレモニーのあと、森のコンサート、森林交流会へと続く。会場には下記のコーナーが設営されていて、順次、参加者のピークも迎えていた。

<各コーナーのご紹介> パートナー・定着ボラ、丸太切り、クラフト(どんぐりトトロ)、ゲーム(コマ・ロケットラワン)、水生・土壌生物観察、野点、草笛、水源涵養機能実験、グッズ販売など加えて、会場内では、来年の5月23日(日)開催「全国植樹祭2010」のマスコット「かなりんちゃん」(キャラバンチーム)も参上。その愛らしい姿をカメラに収める参加者も。また、おもてなしの一環として、B級グルメへの参戦も噂される鹿シチュー、(広域水道企業団様、タカナシ乳業様より提供の)飲料サービス、不二家さんからはお菓子のサプライズもありました。

テント撤収のあとの降雨。植栽木にとっては慈雨となったことでしょう。来年も、ぜひ、参加りたいと思いました。



自然にピッタリ！草笛演奏



野点コーナー



けっこうなお手前です。

各コーナーいろいろ



美味しいねー鹿シチュー
寄・民宿 しおやさん提供

駒回し名人



ゲームコーナー



ラワンロケット
飛びます！飛びます！



丸太切りにアタック

写真；鹿シチュー広報部 M
他：広報部 鈴木松弘カメラマン

私の認識

野鳥その72

高橋 恒通

今回も未だ紹介してなかった山野の鳥達に登場して貰います。

まずは私達の身近で見聞きできる留鳥又は漂鳥のホオジロ（漢和名：頬白、英名：Siberian Meadow Bunting, 直訳すると“シベリア牧草地のホオジロ”）体長L=17cm、についてです。

世界地図上での棲息分布域は、中国東北部からバイカル湖辺りまで、そして日本では種ヶ島から北海道までの領域です。

体色 成鳥は顔にポイントがあります。頭頂部は暗褐色、眉斑、頬線、喉は白色、過眼線、顎線は黒色で白黒のコントラストが目立ちます。成鳥にはその黒色の部分が茶褐色に入れ替わっているので判別は楽です。背面、肩羽は茶褐色の地に黒い縦斑が混じり、上尾筒は茶褐色、胸前から下腹も淡い茶褐色ですが、黒い縦斑が暗褐色なのでこの点でも見分けは容易にできます。ホオジロ科の野鳥の多くは



尾羽の両外側に白色の部分があり、飛んだ時に良く目立ち、ホオジロはその代表選手と認識してまゝです。環境としては農耕地、里山の草原や川原など明るく開けた場所を好みます。

類、非繁殖期には草の種子 採食は繁殖期には昆虫に長い非繁殖期には地面の上や比較的に低い位置で採食します。従って見通しの良い開けた場所の地面に降りていても、天敵から少しでも身を隠せる様に落葉や地面の色に紛れる地味な体色をしているのではないかと思います。

非繁殖期には小さな群で行動する点や地面に降りて採食する点、そして体色も含めてスズメと共通する点などから探鳥会の折にビギナーから「ホオジロはスズメに良く似てますネ」と言われたことが幾度かありました。

地表で採食し、地表に巣を作り抱卵や育雛（イクスウ）するヒバリにも体色の部分でやはり共通点があるものと私は認識しております。

ホオジロを印象付ける最大のポイントは、繁殖期の囀りです。高い木の天辺などで仲春から初夏にかけてピンピンと跳ねる様な声で上空に向けて“チョイッピイ、チチュチュチュリチョー”と聞こえる弾んだ囀りです。

この囀りを人間の言葉に変換した聞き倣（ナ）しの「一筆啓上仕候（ツカマツリソウロウ）」は有名です。

ところが関西では「源平つつじ白つつじ」と聞き倣されるそうですが、これはこの野鳥の棲息地域ごとの“方言”と言われてます。この他に「天辺一六二朱負けた」「丁稚びんつけ何時（イツ）つけた」などもあるそうですが、私は自分が作った「一発必中」を愛用しています。従って私は自分専用の聞き倣しを用意する事を推奨します。

何はともあれ繁殖期のホオジロは見付け易い処一業界用語でソングポストと称します一で囀りますので、探鳥会の時のリーダー孝行の野鳥の典型のひとつだと認識しています。

そして非繁殖期、特に冬季には川原の草地や林縁や疎林、そして地表に近い落葉した灌木の茂みで“チチ”や“チチチ”と短く地鳴きをします。その時には同じホオジロ科のアオジやカシラダカなどと重なる場面もあり地鳴きが似ているので種の同定に迷います。

この件については後稿でご案内いたします。地味だけど親しみ易い牧歌的な風情のホオジロは、千葉県の県鳥です。

因みに千葉県の県花はナノハナ、県木はイヌマキです。私は何故か千葉県が好きです。

人口約6百万余、面積は神奈川県の2倍強の約5百16万平方キ口、農産物、水産物共に全国有数の県に相応しい鳥であり花であり木であると思いませんか・・・。

<参考資料>

日本の野鳥、山溪ハンディ図鑑7、写真・解説/叶内拓哉、分布図・解説協力/安部直哉、解説（鳴き声）/上田秀雄、山と渓谷社。

四季の博物誌、荒垣秀雄 編、朝日文庫。

写真（ホオジロ）yahoo 野鳥図鑑より

お詫びと訂正

森のなかま 10月号本誌「私の認識」P.3左側、下から13行目～鋭い冬の陽を鈍い冬の陽～に訂正しお詫びいたします。

自然観察部会の活動

自然観察部会 野田重雄

我々、かながわ森林インストラクターの会の自然観察部会は、都会の生活が長くなり自然から遠く離れてしまった人々が、特に勉強や部活、ゲームなどに追われ自然に触れることが少なくなった子供たちを含め、障害物だらけの自然のなかで活動することにより、感性も五感も好奇心も創造性も刺激され、更には身体も鍛えられます。こうした体験を無理なく与えてくれるのが自然で、この自然が丸ごと人間を育てる力を持っていると思います。

そのために森林ハイク・森林探訪・自然観察会などを行い、できるだけ多くの人々に自然に親しんでもらえるような機会を作っています。

その一つとして、9月12日に箱根仙石原で森林探訪を開催しました。

天気予報は最悪でしたので応募者82名でしたが、実際の参加者は40名と半減してしまいましたが、8班体制で10名の森林インストラクターでご案内しました。

ところが、天候は予報に反し殆ど雨に降られることなく、遠くの山々を見ることができ、特に良かったのは腰を下ろしてゆっくりと昼食を楽しむことができたことです。

出発地点、仙石原湿生花園ではオスのキジに迎えられ、幸先の良いスタートとなりました。道々、秋の野菊を初めイヌショウマ、イヌトウバナ、オミナエシ、オトコエシ、キントキヒゴタイ、キンミズヒキ、クズ、サワヒヨドリ、タムラソウ、ツリガネニンジン、ツルニンジン、ヒキオコシ、マルバフジバカマ、ミズヒキ、ヤマハッカ、ヤマトリカブト、ヤマハギ、ワレモコウなどなどの花やアケビ、ゴマキ、サワフタギ、マユミ、ミツバウツギなどの木の実、クロモジの冬芽など雨も気にならず楽しく観察を続けることができました。また、遠くの山の状態や、植林地の現状などもゆっくりと観察することができました。



マルバフジバカマ

個々の話から草花のしたたかな生き方で子孫を残すための工夫、生物同士のかかわり、自然の仕組みやその大切さなどに話を発展させ、参加者ともどもインストラクター自身も楽しめた森林探訪を行なうことができました。



オミナエシ



オトコエシ



アキノタムラソウ



ヤマトリカブト



イヌショウマ



ツリガネニンジン

森林インストラクターのレベルが一定でないという一部の参加者からご指摘ありますが、全ての森林インストラクターはテーマとして説明すべき点は説明しております。ただ、経験の違いにより表現方法・説明の仕方に多少の差が出ていること、ご了解願います。

とにかく、悪天候の予報にもかかわらず40名もの方々に参加していただきありがとうございました。そして、森林インストラクターの皆様ありがとうございました。

写真

マルバフジバカマ・・・広報部・村井
他・・・yahoo 百科事典より

本の紹介

野山の名人秘伝帳 かくま つとむ著

堤 洋 8期

ウナギ漁、自然薯掘りから

野鍛冶、石臼作りまで

子供の頃を思い出させる本です。

石臼で挽く黄粉の香りや、川で釜を引き揚げる川面の匂いを祖母の面影とともに読みました。

採算性や効率重視で環境までも無視をする現代からすれば、歴史遺産、遺物としてしまうような技術であり製品ですが、顧みるとこれほど自然と向合っている暮らしはないと思います。自然薯にしても、葛根掘りにしても、掘り尽さず次も掘れるよう一部を残す。先人の知恵を大事に伝承している。最近特に自然破壊や環境破壊、公害の垂れ流し等環境への負荷がCO2を指標とする地球環境の悪化として喧伝される中で、一息つける読み物になっています。

ここでは、見出しの他に、「食べる・楽しむ・自然の恵み」として12の項目、「ぬくもり伝える、手作りの名人、名品」として11の項目が取り上げられノンフィクションでまとめられています。

「食べる・・・」では、この本で初めて知った「松葉サイダー」(下左)「山塩」等があります。いずれもおもしろそうです。松葉サイダーは自分でも作れそうですが、山塩は試すのに根性が要りそうです。

「ぬくもり・・・」では「きみがらスリッパ」はデントコーンの皮で草鞋のように編込み作ったもので全くの天然素材、「道芝のわらじ」(下右)は路傍の雑草であるチカラシバを素材に作られており、ワラ素材より丈夫で滑りにくく、川仕事や祭りの足揃えに欠かせないとのこと。

「しょうぎ」や「桶」づくりは子供の頃の田舎では職人さんが居て、子供心に仕事ぶりを眺めては感心していましたが、鍛冶屋さんで、熱して叩き延ばしているのを見て、家に戻って風呂の火に五寸釘を入れ、金槌で叩いて遊んだ思い出が甦ってきました。

郷愁はともかく、現代では商売としては成立しえないでしょうが、自然と向合い、自然との折り合いの中で生活する姿には感銘を受けております。(農文協 1,900円+税)



活動短信

8/29~10/10

県民参加の森林づくり・(下草刈り)

『ヤビツ・ヤマビルへの私的考察』

日 8月29日(土)
場 秦野市寺山 ヤビツの森
参 60名
財 高橋、豊丸、 小林
イ L酒井、佐藤恭、友谷、国分、鈴木友、
稲辺、佐藤武、尾崎、戸谷、黒澤、
斉藤彰、三浦、波多野、宮下

冷夏の中、3回目の真夏日。ヤビツ寺山の倉庫横の斜面5区画。保護樹種は捕獲した約50cmのケヤキ等。身の丈ほどのカヤに被圧尽されていた。インストラクターの偉大な協力により、下刈完了。朝の配布塩も、靴下に血を滲ませたのは2名で、一個使用。ちなみに8/5は倉庫前で治療者6名、発見ヒルは30匹以上、下見では10分程カヤの中に分け入っただけで長靴に10匹も付着。快晴・乾燥時は活動低下。

歯・牙は残るか；口径3mm内に3顎歯。1顎歯に約80の歯で衣服・皮膚を食い破り吸血する。鋭利な刃物で削り取られたような逆Y字形の切り口になり、牙が刺さったような傷口が残る。応急手当：指でつまんで血を押し出す。ポイズンリムーバー必携。血液凝固を阻止するヒルジンを出す。消毒・抗ヒスタミン軟膏。カットバン。手当をしないと、数時間のガラガラ血と痒みが続く。まれに発熱・リンパ節の腫れ等の二次感染が起こる。

予防：据仕舞で隙間を作らない。長靴の中にも侵入。シャツのボタンの間に忌避剤を噴射。靴下・手袋・首巻を二日間、希釈塩水に浸す。そして、吸着された時は口元に塩を振り掛ける。皮膚への直接吸着があるので、火は避ける。地に落ちた昼は必ず塩で殺す。一番下に百円の女性用膝下ストッキングをはく。DEET含有忌避剤は山道具店では撤去されていた。(記 10期 酒井)

活動短信

、森林づくり体験講座E 里山整備活動

日 9月12日(土) 8時~13時
 場 大和市上和田 久田緑地
 参 大人 男12名、女2名 計14名
 財 鳥海、高橋、 田嶋
 イ L久保寺、堀江、北村、伊藤、植松、
 加藤滋、草野、

活動場所の久田緑地は上和田地内の斜面緑地で、畑や屋敷林のある農村風景が見られ、貴重な緑の景観は地域住民の散策や植物観察の場として大きな役割を果たしている。

心配していた雨は予報よりも早く降り出し、9時過ぎからのオリエンテーション 準備体操 作業開始は降雨の中となった。作業の下刈り(笹)場所は平坦地なので足場等の危険はないが、雨で濡れているため刈り難くそう。それでも全員の頑張りによりほぼ予定どりの下刈りが出来、雨が小降りとなる頃90分の作業を終了する。

作業終了後、急遽お借りした近くの社会福祉センターに移動し昼食となる。雨の中の作業であったが参加者皆さんの感想は満足されていた様子なのでホットする。

昼食後、雨上がりの緑地内を約1時間観察ウォークし、予定時間の13時に桜ヶ丘駅にて終了・解散する。天気か良ければ皆さんに快適な下刈作業が出来たのではと悔やまれる次第です。

(記 7期 久保寺)

自然観察会~秋のキノコに出会う旅~

日 9月19日(土) 10時~15時
 場 県立21世紀の森
 参 58名(大人46名、子供12名)
 イ L島岡、森本、千葉、
 足柄グリーンサービス 布施(あっきー)さん他

当初、予定していた参加者30名を大幅に超える58名の応募があったキノコの観察会。私は子供のいる家族組の26名と金太郎コースからどんぐりコース~森林ふれあいセンターと回った。子供たちの「これ、何」「食べられる」の質問攻めにあいながら、昼食場所の森林ふれあいセンターに到着。

昼食後、キノコを並べ、鑑定(同定)していく。班毎に特徴的なキノコを説明していく。今回は「ツチグリ」の幼菌を子供たちが多く見つけてきてくれた。観察中、子供たちは「トリュフかなー」と聞いてきたが、ここで「ツチグリ」の幼菌であることを説明、カッターで切断し中身を見せると、茶色い胞子が出てきた。「食べられないのかー」と子供たちののがっかりした声。このツチグリは胞子が成熟する秋には食べられないが、福島県では夏に未熟なツチグリを「マメダンゴ」と言い、皮をむき食べると言う(『キノコは安全な食品か』小川真著・築地書館)

(記 7期 千葉)

とつか環境エコプロジェクト

<第一回 森林の重要性を学ぼう>

日 10月3日(土)
 場 戸塚地区センター
 参 13名 小学生2年~5年 6名
 付き添いの大人 5名
 大人だけの参加 2名
 NPO,行政スタッフ 8名
 イ 有田、(持参資料;インディアンの格言
 どり亀さんの詩)

[活動内容]

- 1 森とはなにか、森はなぜ大切か、里山の特徴は、という3点を子どもにも理解できるように、言葉を噛み砕いたり、白板に漫画風の絵を描いたり、クイズを交えたりしながら話した。
- 2 小学校低学年生と大人の両方を対象とした講話はハイキングなど現場に出たの話とちがって、両方が容易に理解でき、退屈しないものとするのはかなり難しいが、質疑応答の場面などで一応期待した程度の反応があった。
- 3 終了、解散後も、個別に幾つかの質問が続き、それなりの手応えはあった。また、ツアーガイドも頼めるか、などとの打診もあった。さらに、アンケートにも『子供大人半々の内容で、子どもにもわかり易くよかった』との声もあった。
- 4 NPOスタッフからは、土砂崩壊等による災害、間伐の必要性 つまり、間伐をすれば防げるのだ、間伐をしないから災害が起きるのだ、という点を強調して欲しいとの要請があった。

[所感]

子どもが興味を持つと、その親がフォローする形でこの種の取り組みに参加する、また一方では、親が興味を持っていると、それが子どもに伝わることとなり、いずれの場合も、親子間の共通の話題になっているという家族が複数あり、この種の活動の意義を再確認した。

(記 6期 有田)

「里山ボランティア育成講座」<竹林整備>

日 10月3日(土)
 場 生田東五反田特別緑地保全地区
 参 里山講座受講生・修了生、
 緑の活動団体メンバー 5名
 財 (財)川崎市公園緑地協会 2名
 (青山課長、野牛雪子)
 イ L竹島、草野、

『里山ボランティア育成講座』参加者等を対象として、現場での再研修を兼ねての竹林整備でした。作業開始前からの小雨が降り注ぐ悪条件の中、野牛氏の活動趣旨・緑地の特徴などの説明の後、2班に分かれて準備体操・諸注意の

あと作業に入った。殆ど手付かずの荒れ放題の竹林だったが、短時間ながら少数精鋭の精力的な活動で、竹林も明るくなり、全員充実感に浸った。この後道具の手入れ・「振り返り」のあと帰路に着いた。川崎市には、手を入れなければならない緑地が多く、今後とも「川崎市公園緑地協会」との連携を強めていくことが必要と感じた。

(記 8期 草野)

第2回 ブラシュアップ研修報告

日 10月4日(日)9時半～15時 曇晴れ。

場 やどりき水源林集会棟前広場

講師 神奈川県ネイチャーゲーム協会

さがみネイチャーゲームの会

ネイチャーゲームインストラクター

新井利佳先生

参 インストラクター：40名

ネイチャーゲームは、アメリカのナチュラリスト、ジョセフ・コーネル氏によって考案されたアクティビティの総称で、様々な感覚を使って自然を体験し、自然への共感を育む活動です。

今日は、合計6種類のアクティビティの体験を通じ、ネイチャーゲームとは何ぞやということ学びました。受講してみて、お客様に自然の仕組みを理解してもらうツールとしてネイチャーゲームは有効と思われま。

例えば、手触りだけでもものを見分ける「タッチ&フィール」(写真中)や虫になった立場で見る「ミクロハイク」(写真下)など、私自身新しい視点を頂いた気がしますし、インストラクター同士でも、結構盛り上がりました。今後、森林・環境学習の需要がますます高まることが予想されます。今回、学んだことを生かしていきたいと思ひます。

(記 8期 斉藤彰)

<写真上：広報部 M/中、下、斉藤彰秀さん 提供>



県民参加の森林づくり

日 9月26日(土)晴れ 8時半～13時

場 小田原市久野(一部事務組合有林)

参 一般48名(内女性5名)

財 永島、鳥海、道具 川口(県森林) 看 廣島

イ L海野、菊地、米山、白畑、鈴木昭、

渡部、飯澤、小沢、女川、中元

好天に恵まれ、今年最後の下刈り作業を行いました。参加者には先ず安全第一をモットーに、傾斜がきついで足場をしっかりと確保して作業するよう、特にリピーターには慣れによる事故の無い様に、初参加の方には個別に道具の持ち方、使い方、マイペースで楽しく作業するよう各班のリーダーに指導して頂き作業に参加してもらいました。作業現場は急勾配の傾斜地でありましたが、リピーターの方が多く各班とも作業は順調に進み、早く終わった班には、終わってない班の応援と下見時にその対策として予定しておいた場所に分散し引き続き作業してもらいました。背丈ほどあった草が綺麗に刈られ参加者の達成感も一入ではなかったかと思ひます。

(記 10期 海野)

森林体験とバウムクーヘンづくり

日 10月10日(土)曇り後晴れ

場 小田原市いこいの森

参 小田原市民 33名(子供4才～12才・17名

保護者 16名)

小田原森林組合 佐藤 他

イ L村井、出口、横山、白畑、

台風18号接近のため、下見は抜けるまで待って本番の前日に3名で行う。翌日、台風一過の秋晴れを期待していたのだが、曇天でスタート。小田原市広報で募集した子供たちと元気なお母さん達が今回のメンバーでした。(男性は1人)午前は30年杉木の除伐、アオキ、背丈を越すシラキ、アズマネザサが対象。小田原の子供達はやはり町の子供と違って、慣れて来ると積極的に取り組むし、飽きれば林の中を走り回ったり、遊びのすべを知ってるようだ。昼食後、各グループごと山の手入れについて、勉強の予定を、白畑さんと私とで水源林の紙芝居をアドリブで行う。結構子供たちには受けてました。さて、最後のお楽しみは、バウムクーヘン作り、火おこしは私達の仕事なのですが、男の子は興味津々。女の子はお母さんにまつわり付いて、調理のお手伝い。5チームそれぞれ美味しいバウムクーヘンが焼き上がりました。年輪にして10～12年ものでした。活動後、アンケートを拝見。午前の除伐で木を切った爽快さが楽しく、また、午後のバウムクーヘン作りは楽しく美味しかった。との感想で埋め尽くされてました。(記 9期 村井)

やどりき水源林
ミニガイド

10月のトピックス



ゲート前のクサギの実がコバルトブルーに輝きだしました。

11月の水源林



紅葉の見頃は中旬頃からです。

「森の案内人」情報

実施時間：毎週土曜・日曜・午後1時より1～2時間程度（冬季休止）

集合：水源林入口ゲート前

内容：森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ・手入れなどについて説明いたします。

参加自由、参加費無料

*10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。

問合せ：(財)かながわトラストみどり財団 TEL:045-412-2255

fax:045-412-2300

●ホームページ：：<http://www.ktm.or.jp>

●E-mail:midori@ktm.or.jp

●やどりき水源林までの道順

小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約25分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩35分。

寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内

市民事業交流会 入場無料

水源環境を守る市民活動について情報交換しませんか？

平成21年11月6日(金)13時半～

場所：プロミティあつぎA/B会議室

本厚木駅北口 徒歩4分

事前申し込み不要(定員60名)

主催：水源環境保全・再生かながわ

県民会議・市民事業専門委員会

問い合わせ：<事務局>神奈川県環境

農政部緑政課 水源環境調整班

電話：045-210-4324(直通)

FAX：045-210-8848

森のなかま原稿募集

会員・購読の皆様からの原稿を募集しています。写真、スケッチなども募集しております。

送り先

< 配信希望・手書き原稿送り先 >

森 義徳 〒232-0053

横浜市南区井土ヶ谷下町16-3-202

Tel/090-5433-7784Fax/<株リコ

ー・森宛045-590-1910>

Mail: myforest@yha.att.ne.jp

< メール・手書き原稿送り先 >

【本誌】村井正孝

〒226-0002

横浜市緑区東本郷6-22-1-420

Tel/Fax: 045-476-4112

Mail: murapu60dai@yahoo.co.jp

【別冊】金森 巖

〒227-0038

横浜市青葉区奈良2丁目10-5

Tel/Fax: 045-961-6695

Mail: i_kanamori@morinotabibito.com

【CCで】森本正信

〒194-0001

東京都町田市つくし野2-13-7

Tel/Fax: 042-796-6011

Mail: k-inst0981@friend.ocn.ne.jp

原稿の締切は毎月20日です。

編集後記

シルバーウィークは自宅の庭の手入れに全力を尽くしました。剪定、掘り起こしでの雑草取り、土壌改良、柵の塗装、高圧洗浄器などなど、日頃放置しておいた罪滅ぼしということで、なんとか面目を保ちました。どんぐり発芽用の専用畑を作りました。(金森)

新型インフルエンザの予防注射が始まった。輸入と国産、いずれが良いか判断できないが、国産は、蛾(名前は聞き洩らした)の卵細胞を培養したものと同じ。人気の無い蛾は人類を救う。素晴らしい。(鈴木松)

今年の水源林の集いには中国の研修生が多く参加していました。植樹の時は楽しそうに大きな声を掛け合い、帰り道は全員で大合唱です。たいへんにぎやかな秋の一日でした。(井出)

新聞でおからを出さずで作っている豆腐があるという記事を目にしました。味もグッドとのこと。すばらしい。是非食べてみたいです。(鈴木朗)

水源林のつどい、去年よりは参加者が少ない感じでしたが、楽しいイベントでしたね。来年はもっと、沢山の子供たちにも参加してほしいものです。(森)

11期生卒業おめでとうございます。広報部「森のなかま」発行に関心のある方、お手伝い大歓迎です。ちょっとのぞいて見たい方も、大歓迎！月末、横浜県民サポートセンター9階で印刷、封入、発送作業、帰路有志で一杯も楽しいですよ。(村井)

年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用して申し込みください。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込みください。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記してください。

振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

(頒価 200円 送料共)

編集人：村井正孝

広報部：井出恒夫(HP) 鈴木松弘

金森 巖 森本正信

森 義徳 鈴木朗

森のセラピーを体験してみませんか？

主催：NPO法人かながわ森林インストラクターの会 * 後援：松田町

*****11月21日(土) **集合場所：小田急・新松田駅前

集合時間 ** 9時 JUST ** 会費1500えん(保険付き・ゲート前まで送迎)

募集人数 ** 先着30名(プログラム等詳細は後日、参加者にお知らせします)

参加申し込み/FAX 046-280-4102

実施場所：やどりき水源林

氏名・住所・電話・FAX番号・年代を明記して申し込みください。